

## 着床前診断により二人の子供を授かった私達

(Sさんより)

私達は、習慣性流産を着床前診断にて乗り越え、2人のかわいい子供を手にするのできた夫婦です。

実は今から5年前の第2回FROMの会で、転座による染色体異常の結果、習慣性流産に悩みつつ、日本産科婦人科学会が認めていないがために着床前診断をしてもらえず、7回もの流産を繰り返して来た事実をお話しし、着床前診断を認めて頂くべく訴えさせて頂いた夫婦です。

思えば今から10年前、最初の妊娠に喜んだのもつかの間、流産という結果を迎え、暫くして妊娠したものの、又、同じ結果を迎えてしまいました。喜びと悲しみの続いた後、諏訪マタニティークリニックを訪れ相談、その結果二人の間に染色体に転座のあることが分かり、それが流産の原因であることが分かったのです。その時、着床前診断という方法で自然妊娠より確実に元気な子供を授かれるということ、又、それを日本産科婦人科学会が禁止しているために、着床前診断をしてもらえないことも知るようになったのです。

担当して下さった根津先生から「必ずこの施設で着床前診断が出来るようにするから、それまで自然妊娠で頑張る」と言われ、それから5回の流産。妊娠の度「今度はゴールまで行けるかも」と期待しながら、結局「今度も残念」として手術台への繰り返し。その度に「日本産科婦人科学会は、何の権利があって私達を苦しめるのか」と。そして、その気持ちは恨みから絶望へと変わっていったのです。

その時、神戸の大谷先生の着床前診断成功例の報告、そして大谷先生の日本産科婦人科学会からの除名の報道。学会のことは私達は良く分かりませんが、患者さんのために努力している医師を、会の内部で決めたことに反するからといって、何で排除するのでしょうか。私達には今でもそれが分かりません。

その報道後、根津先生と副院長の吉川先生のお取り計らいにより、大谷先生の所で着床前診断をして頂き、それを諏訪マタニティークリニックで戻すことになりました。しかし、残念ながら着床できませんでした。そうする内に、諏訪マタニティークリニックでは着床前診断のための施設建設、スタッフの方の4、5年を掛けた研修を経て、着床前診断の出来る体制が整い、念願の診断を諏訪マタニティークリニックで受けることが出来るようになったのです。しかし、度重なる手術の結果、子宮内膜はボロボロになり、受精卵は着床するも、結局2回の流産。もうこれが最後と思い、して頂いた結果、双子を妊娠することができました。又流産するかもという諦めを持ちつつも期待の毎日が続き、今まで最高の妊娠週数となった時、期待感は日を追うごとに高まって行ったのです。切迫流産の繰り返しを経て、最後は早産予防の点滴、そして妊娠37週の声を聞いた暮れの27日、帝王切開にて無事双子の我が子を二人して抱くことができました。そして今は悪戦苦闘の嬉しい毎日です。

このようにまとめさせて頂きましたが、語り尽くせない、書き尽くせないことがいっぱいあります。いずれにしても、再度の日本産科婦人科学会からの除名も覚悟の上で、私達の希望を叶えて下さった根津先生、吉川先生、そしてスタッフの皆さん、大谷先生、FROMの会の皆さん方に、心から御礼申し上げます。

前回は空しい訴えでしたが、今回はこのように喜びと感謝を持ってお話出来、本当に幸せです。この幸せを、根津先生や大谷先生だけでなく、多くの産婦人科の先生が日本のどこでも私達と同じ悩みを持っている人達のために与えられる日が一刻も早く来ることを望みながら終わらせて頂きます。

本当にありがとうございました。